



冬の皴よまある海よ
今少し生きて己れの
しづけを 見むか

中城ふみ子

F U M I K O N A K A J Y O

第9回

中城ふみ子賞

短歌作品募集 ■受付期間 令和2年4月1日～4月30日

■主催／中城ふみ子賞実行委員会・(株)短歌研究社・帯広市・帯広市教育委員会

第9回

中城ふみ子賞

短歌作品募集

募集要項

テーマ

自らの「生きる姿勢」を短歌に託した意欲的で力強い作品を募集します。

応募条件

- 未発表の作品 短歌50首とします。
- 入選作品の著作権は主催者に帰属いたします。

応募方法

- 400字詰め原稿用紙 (B4) を使用し、タイトルをつけて原本1部とコピー3部の計4部を提出。
- パソコンの使用可。
- 黒インク、または黒ボールペンを使用のこと。
- ①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④年齢 ⑤性別 ⑥職業(学校) ⑦電話番号 ⑧所属結社(所属している場合)を別葉に記載し添付のこと。
※原稿用紙には、氏名などを記載しないでください。
- 新旧かなづかいを明記のこと。
- 応募作品は1人1篇(50首)に限ります。
- 原稿の返却、訂正には応じかねます。
- 出詠料 2,000円
作品に定額小為替(郵便局で購入)を同封して郵送。または口座振込(切手の代用不可)。受付期間内に支払いが確認できない場合、応募が無効となります。
口座番号 帯広信用金庫 本店 普通1379946
口座名義 ナカジヨウミコシヨウシツクウインカイ
※応募と同じ氏名でお振込みください。(ATM振込の際は、必ず氏名を入力してください。)

受付期間

令和2年4月1日(水)～令和2年4月30日(木)
(当日消印有効)
作品は郵送、または直接応募先への持ち込みにて受け付けます。

応募先
問合せ先

〒080-0012
北海道帯広市西2条南14丁目3番地
帯広市図書館内 中城ふみ子賞実行委員会
電話 0155-22-4700 FAX 0155-22-4701

選者

●永田和宏 ●池田はるみ ●時田則雄

賞

- 中城ふみ子賞 1名 賞状及び副賞(10万円)
入選者の作品は、雑誌「短歌研究」8月号に発表。

主催・後援

主催：中城ふみ子賞実行委員会、(株)短歌研究社、
帯広市、帯広市教育委員会
後援：帯広商工会議所、(一社)帯広観光コンベンション協会、
帯広市川西農業協同組合、帯広大正農業協同組合、現代短歌社、いりの舎、朝日新聞帯広支局、毎日新聞北海道支社、読売新聞釧路支局、時事通信社帯広支局、北海道新聞帯広支社、十勝毎日新聞社、NHK帯広放送局、HBC帯広放送局、STV帯広放送局、HTB帯広支社、(株)帯広シティーケーブル、東京家政学院光塩会



札幌医大病院にて

中城 ふみ子

中城ふみ子は、戦後の歌壇に彗星のごとく現れ、死と生を詠んだ数々の歌は、短歌の世界に鮮烈な光を放った。

大正11年11月25日、北海道帯広市に生まれる。幼少の頃から人目をひく美しさであった。昭和16年、東京家政学院卒業後帯広に戻り結婚。四子をもうけるが後に離婚。

昭和22年、小田観螢が主宰する短歌結社「新墾(にいはり)」に入会。26年には帯広の「山脈(やまなみ)」に同人として参加。この年、左乳房に異常を自覚。27年、「左乳腺単純ガン」と診断され切除。翌年再発し、29年、札幌医大病院へ入院する。

同年、雑誌「短歌研究」の第一回新人五十首募集に応募し一位となる。乳ガン、離婚、それに恋愛の記憶を重ね劇的に詠った入選作「乳房喪失」は、「短歌研究」4月号に掲載され、歌壇内外に大きな反響を呼ぶ。

昭和29年8月3日、31才で逝く。死の直前に歌集『乳房喪失』が刊行。死後第二歌集『花の原型』が編まれた。

現在、帯広市内には二基の歌碑があり、それぞれ「冬の皴よせある海よ今少し生きて己れの無惨を見むか」と「母を軸に子の駆けめぐる原の晝木の芽は近き林より匂ふ」の歌が刻まれている。